

2021年9月3日

東京学芸大学 文部科学省委託「高等学校における日本語指導体制整備事業」2021

企画開発会議調査部会 第3回ヒアリング資料

学校法人吉用学園 柳ヶ浦高等学校

柳ヶ浦高等学校の外国人児童生徒等の教育

【生徒の実態】

昨年より外国人留学生のみを対象としたインターナショナルコースが設立され、今年は2年目になる。現在、2年生18名、1年生27名が在籍しており、出身国は「中国」「香港」「モンゴル」「韓国」「ベトナム」「セネガル」と様々である。

昨年度は、中学3年生の8月より両親と共に日本に来ていた中国籍の生徒1名の生徒を除き、17名はコロナウイルスの影響のためなかなか入国ができず、全員揃ったのは11月30日であった。それまではZOOMを利用したオンライン授業を行っていた。今年も昨年同様まだ入国できておらず、現在もオンライン授業を行っている状況である。

生徒たちは、入国前まで日本語学校に通ったり、独学で日本語を勉強したりして入国してきているが、日本語力には当然差があり、直近の日本語能力試験にてN2を取得している生徒もいれば、N4を取得できていない生徒も在籍している。

両親と共に日本に来ている生徒1名を除いて、他の生徒は、全員寮で生活をしている。そのため、生活面も寮監・担任・部活動顧問・事務局を中心にサポートを行っている。

【日本語指導・強化学習支援】

日本人クラスに数人の外国籍の生徒がいる学級とは異なり、クラス全員が外国籍の生徒であるため、いわゆる取り出し授業といったものはなく外国人生徒用のカリキュラムを組んでいる。通常の授業の他に、学校設定教科として「日本語」の授業を1年時に週4時間、2・3年時に週3時間設けてあり、他にも日本の文化を学ぶ授業として「異文化理解」という授業も週1時間行っている。

現在は、日本語教師1名で日本語の授業を行っている。国語の教師も教室に入ってフォローをしているのだが、能力差や人数の問題があり複数のグループに分けての授業体制がとれるように日本語教師を増やす予定である。

通常授業での板書にはルビをふり出してくる言葉の説明などを細かくする必要があるため、日本人生徒に対する授業のように展開していくのはなかなか難しい。また重要な配布物に関しては、各国の言葉に翻訳して配布することもある。

【進路支援】

まだインターナショナルコースの卒業生をだしていないため、現在、わからないことも多々ある状況である。ほとんどの生徒が日本の大学、または専門学校への進学を目指しており、将来、日本で就職することを希望している。多くの大学入試での外国人留学生枠は「日本能力試験」を受験しての入試になるようだが、対象は「外国にて12年の教育を受けた生徒」であり、日本で高校教育を受けた本校の生徒は対象外になるため、日本人と同じ枠での受験になる。そのため「日本語能力試験」「日本留学生試験」「TOFEL」といった試験のスコアを参考資料として提出し別枠での受験を模索している。

【多文化共生に関わる教育や、心的サポート・生活相談】

教室内に多文化の生徒たちが集まっているため、外国人留学生たちはお互いの文化の違いを尊重し合っている。逆に、日本の文化を学び日本の生活様式に合わせるのが難しいと感じているように思える。

他クラスの日本人に関しては、人権学習などを通して異文化を理解し尊重することを学び共存している。

心のケアや生活に関する相談も先に述べたように、寮監・担任・部活動顧問・事務局を中心に複数の教員が関わり、意識的に日常会話からの声掛けや、面談の機会を増やしている。週に1度カウンセラーの方も学校に来ていただいているが、まだ相談するような事案はでない。

【地域の団体・大学・企業等との連携による取り組み】

大分県別府市に立命館アジア太平洋大学(APU)がある。APUは外国人留学生が学生全体の49.5%(2956名)、92ヶ国から来ている大学である。地元APUの事務局と連絡をとり、学生同士の交流をする計画を立てている。授業内でZOOMを利用してのディスカッションを2度行うことができ、本来であれば今年8月にAPUを訪問しての交流会を実行する予定であったが、コロナウイルス感染者の増加に伴い実現することはできなかった。